

寺
ごよみ

十
月

三〇日	二九日	二二日	二二日	二〇日	一九日	一八日	一七日	一六日	一五日	一四日	九日	八日	七日	六日	五日	三日	二日	一日
石田中新報恩講	石田中新報恩講	飯野芦崎報恩講	上野報恩講	善巧寺報恩講	善巧寺報恩講	板屋報恩講	上野報恩講	法要準備	板屋報恩講	板屋報恩講	音楽ライブ	清掃奉仕	東狐報恩講	東狐報恩講	魚津富山報恩講	東狐報恩講	経田報恩講	栗虫報恩講
																	ほっこり法座	

寺 報
善 巧
ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富山県
黒部市宇奈月町浦山 497
白雪山 善巧寺
TEL (0765)65-0055
FAX (0765)65-0975
<http://www.zengyou.net>

報恩講
十月十九日
十月二十日

親鸞聖人のご法要



本堂山側に屋外型の納骨スペースが誕生しました

善巧寺の伝統的な法要は、大きく縮小し厳しい状況にあります。かつて、お寺を第二の家のよう感じ、行事参加が当たり前とされた時代がありました。私が生まれた頃の記録では、報恩講に三八〇名のお名前が記されています。それが平成に入り二百名台となり、平成二十年代には百名を切り、現在は六十名前後という状況になりました。参拝の減少を食い止めるようと模索してきましたが、思うような成果に結びつかず、力及ばない日々です。かつては親戚の法事に招かれれば自然に集うのと同じように、お寺参りは「行くのが当たり前」でしたが、いまは「親が世話になった場所」という認識にとどまり、「自分が参加する場」として受けとめる方は少数となりました。当事者意識を持って

あなたのため

ただけなのは、こちらの伝道不足としか言いようがなく、住職として身の縮む思いを抱えています。

現在は、良くも悪くも、かなりフラットな状態になったのかもしれない。強制力が弱まった分、参拝者は自発的に行動する方々が集まり、当事者意識の中で法要が営まれています。その輪を少しずつ広げていきたいです。

法事や法要を営むということはどういうことなのか。手を合わせるとはどういうことなのか。私のこころの拠り処は何なのか。灯火はどんなに小さくろうとも絶やしませんので、今一度、法要は誰かのためのものではなく、「あなたひとりのために営まれている」ということを受け取っていただきたく、お誘い申しあげます。

雪山俊隆

総代会

九月二一日

善巧寺広間にて総代会を開催しました。責任役員・総代各位が出席し、令和六年度の行事・決算の報告、会計方針、年会費改定について協議しました。新任総代としては佐々木助忠氏（浦山）、丸田正弘氏（中陣地区）が就任しました。行事報告では、報恩講・永代祠堂会をはじめ年中行事を滞りなく厳修した一方、参拝の減少傾向が続き、二十年前は参拝者



二百名以上の法要が現在
は五・六十名になり、年
中行事の収入は直近十年
で約百万円縮小した旨を
共有しました。葬儀・法
事の布施収入、年会費収
入も緩やかな減少が続い
ています。地域との接点
づくりとして、門徒会館
での喫茶運用（カフェ愚
禿）の試みを継続してい
ることも報告しました。

会計報告では、一般会
計の不足を補うため、こ
れまで特別会計（内陣
法名）から五年間で計
三百七十万円を繰り入れ
てきたこと、納骨関連収
入を営繕に充当してきた
こと、それでも運営は厳
しく現在九十万円の借
入金があることを説明し
ました。決算は表記修正
のうえ承認されました。

十年にわたる運営悪化 現在九十万円の負債

以上を踏まえ、寺門 保します。決算・予算

護持の基盤を整えるた
め、令和七年度より年
会費を一万五千元に改
定することを決定しまし
た。（現行一万一千元）。
納入は、ほんこさま（在
家報恩講）の折・寺へ
の持参・振込等で承り
ます。家計のご事情が
ある方には分納・猶予
に個別対応いたします。

年会費一万五千元に改定

寺側の取り組みとし
て、まず内部の引き締め
を図るため、人件費を当
面五%縮減（年四十二万
円相当）します。あわ
せて、内陣法名・納骨
壇（墓）に関わる収入
は特別会計として区分管
理し、将来の修繕・更新
の財源として優先的に確

の概要は寺報および配
布資料で毎年ご報告し、
透明な運営に努めます。
なお、増額分は特定の
事業に限らず、設備保
守、法要準備をはじめと
する寺院運営全体の費用
に充当します。収支や特
別会計の状況は適宜見え
る化し、必要に応じて個
別のご説明にも対応し

ます。参拝の回復に向
けた取り組み（法座の時
間帯や内容の工夫、周知
の改善）も継続し、収支
が好転した場合は借入金
の繰上返済を進めます。
皆さまにはご負担をお
願いすることとなり誠に
心苦しく存じますが、善
巧寺を次代へ確実に受け
渡すため、何卒ご理解と
ご協力を賜りますようお
願い申し上げます。

寺
ごよみ

十一
月

- | | |
|-----|----------|
| 三日 | 石田中新報恩講 |
| 四日 | 中陣報恩講 |
| 五日 | 空華忌 |
| 六日 | 中陣報恩講 |
| 九日 | 析沢報恩講 |
| 一〇日 | 析沢報恩講 |
| 一日 | 析沢報恩講 |
| 二日 | 析沢報恩講 |
| 四日 | 出・滑川新報恩講 |
| 六日 | ほつこり法座 |
| 一七日 | 浦山新報恩講 |
| 一八日 | 浦山新報恩講 |
| 二〇日 | 浦山新報恩講 |
| 二五日 | 愛本新・中ノ口 |
| 二六日 | 愛本新・中ノ口 |
| 二七日 | 愛本新・中ノ口 |
| 二九日 | 愛本新・中ノ口 |
| 三〇日 | 浦山新報恩講 |

寺
ごよみ

十二
月

- | | |
|----|-------|
| 一日 | 大橋報恩講 |
| 二日 | 下村報恩講 |
| 三日 | 下村報恩講 |
| 四日 | 下村報恩講 |

永代祠堂会

今年の永代祠堂会は一日、八日、十六日、二十日の計四座おつとめしました。

初日の法話は奥野寛暢先生（富山市・妙行寺）にはじまり、八日は高島康彦さん、十六日は藤島秀恵先生（八尾町・勝福寺）、二十日は神子巧照さんにそれぞれ担当していただきました。いずれも法要は本堂、法話は空華殿にて行いました。



いづも盆おどり

八月一日

今年の盆おどりは十日に開催しました。事前準備は小学生と中学生の協力のもと、三日にちょうちんつりを行い、お楽しみのバーベキューを用意しました。盆おどり当日も中高生がお店のスタッフになり場を盛り上げてくれました。



お盆参り

八月十六日

この一年で葬儀のあった初盆にあたるご家庭と、納骨壇を対象にお盆参りを行いました。ご家族でお参りくださる方もあり、それぞれに故人を偲ぶ静かなひとときを共にいたしました。



- 五日 下村報恩講
- 七日 下村報恩講
- 九日 下立愛本報恩講
- 一〇日 下立愛本報恩講
- 一四日 下立愛本報恩講
- 一五日 内山報恩講
- 一六日 ほつこり法座
- 一七日 音沢報恩講
- 二一日 内山報恩講

一月一日

- 〇時 除夜の鐘
- 九時 年頭参り

ほんこさまの準備

- ・朱色のろうそく

- ・お花

- ・仏飯

- ・年会費（一万五千元）

- ・お布施（三ヶ寺分）

親鸞聖人のご法事はお慶びの気持ちで赤いろうそくを立てます。



報 恩 講

浄土真宗門徒にとって最も大切な親鸞聖人の法要です。

十月十九日（日）

午後一時半 法要

講師：青木哲隆師（射水市・覚円寺）

十月二〇日（月）

午後一時半 法要

講師：西塔公崇師（富山市・金乗坊）

空 華 忌

江戸時代に学びの場「空華」を開いた明教院僧鎔の法要です。

十一月五日（水）

午後一時 法要

講師：雪山俊隆（善巧寺）

大イチョウライトアップ

11 月 27 日（木）～ 29 日（金）

18:30 ～ 20:30

善巧寺の大イチョウは紅葉が遅く、毎年 11 月下旬から 12 月上旬にかけて真っ黄色に染まります。今年はその見事な様子をライトアップしてお届けしますので、ぜひご覧ください。同時に夜カフェもオープンします。



ほっこり法座

住職と読む歎異抄

十月 一日午前十時

十一月十六日午前十時

十二月十六日午前十時

法話後はティータイム

参加費：千円

雪山俊隆（善巧寺）

清掃奉仕

十月九日午前八時半

法要準備

十月十六日午前九時



KNB 番組「ワンエフ」に取り上げてもらいました

合祀墓と納骨墓

合祀墓と 2 名用の納骨墓がスタートしました。

常時見学可能です。お申し込みは善巧寺までご連絡下さい。

【納骨墓】

2 壺用スペース

● 七年間

冥加金三十五万円

● 十三年間

冥加金四十万円

● 二十三年間

冥加金四十五万円

● 三十三年間

冥加金五十万円

※骨壺二つ分。延長は、一年一万円。

【合祀墓】

納骨袋で納めます

● 一体 七万円

※納骨袋にお骨を移し替えてお墓に納めます。墓じまい等で複数体の場合はご相談下さい。

合 掌

現在の職種はおよそ二千五百と言われますが、江戸期から昭和初期には二万以上もあったそうです。なかには、坂道で難儀する人の背をそっと押す「尻持ち」という仕事まで。多くの人が季節やご縁に応じて複数の仕事を担い、「誰かのためになること」がそのまま自分の暮らしを支えていました。豊かさとは、そうした小さな役目の積み重ねだったのだと思います。いま、機械化や AI の進展で仕事の姿が変わると議論されていますが、改めて「何のために生きるのか」ということが問われているのかもしれない。坂道で背を支える尻持ちのように、寺もまた、そんな役目を静かに務めていければと思います。



ぜんぎょうじ

検索